

糖尿病・ 内分泌内科

当科では

「先生の診療に加え糖尿病チームで 専門的なサポートをしています」

当院の糖尿病診療の特徴

当科では「糖尿病チーム」を編成し、医師だけでなく日本糖尿病療養指導士(Certified Diabetes Educator of Japan; CDEJ)の資格を持った看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士が、良好な血糖値を目指すだけでなく糖尿病を抱えながらも自分らしく生きるための支援を行っております。最近、持続血糖測定モニターやインスリンポンプを導入した血糖管理を行う患者さんも増えており、糖尿病チームで積極的にサポートしております。また、老々介護や認知機能低下で療養生活が困難な高齢者のケースも増えてきております。当院では、看護師が生活状況を詳しく確認し、必要であればソーシャルワーカーや訪問看護師とも連携し、患者さんが望む場所で安全に療養生活を送れるようにサポートしております。フットケア外来では、患者さんがセルフケアできることを目指して看護師が介入しており、セルフケアができるようになったら卒業して地域に戻られます。

先生より御紹介いただいた患者さんは、先生に代わってこのような「糖尿病チーム」がサポートし、血糖コントロールの改善と生活環境の調整を行い先生のクリニックへ戻っていきます。

インスリンポンプや持続血糖測定モニターの導入も行っています

ミニメド770G
(メドトロニック社)



メディセーフウィズ
(テルモ社)



専門の看護師がデータを一緒に見ながら
振り返りを行っています



糖尿病のある妊婦さんも支援しています



フットケア外来は第1・3木曜日です

フットケア外来のご案内
2013年6月からフットケア外来を開始しています。
糖尿病足病変の発症・再発予防のため、フットケア研修を受けた専任の糖尿病療養指導士が、足の状態を診ながら患者自身がケアでできる上へ指導し、フットケアの継続支援およびそれに伴う生活支援を行います。(個別の自己管理を要しています)
対象: 当院に入院中の糖尿病患者
日時: 毎週水曜日 13時~(予約制)
所要時間 30分~1時間程度
場所: 外来・審室
内容: 足浴、足の観察、つまきり、やすりがけ、フットマッサージ、靴の確認など。
受診方法: 糖尿病内科の主治医へ予約を依頼する。



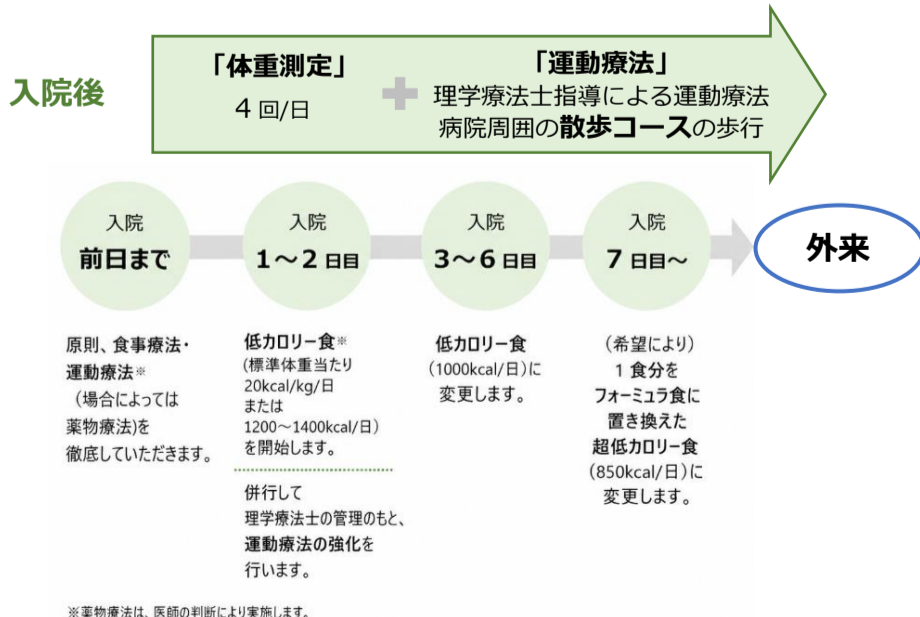
肥満専門外来

肥満症や、それに伴う病気に苦しむ患者さんの治療に対し、包括的に取り組むことを目的として「肥満専門外来」を立ち上げました。糖尿病関連の療養指導士と連携をとり、看護師、薬剤師、(管理)栄養士、臨床検査技師、理学療法士など、チームで連携して総合的に治療を行います。また、先進的な肥満治療を提供していきたいと考えております。



■ 減量入院

当院では、短期間でより減量効果が高い、「肥満症入院減量プログラム」をご用意しています。



当院では、専門外来「肥満外来」をご用意しています。←

■ 肥満症減量外来←

減量治療ケアおよび肥満治療薬の導入まで、以下のスケジュールで経過をみていきます。←



初診←

一般採血、2次性ホルモンの確認。
栄養指導予約、グラフ化体重導入など
合併症の評価: 睡眠時無呼吸症候群検査
心・腎機能や動脈硬化評価など

1~2か月ごとの外来+栄養指導←

6か月~←

→ 肥満治療薬の導入←

2~6週間ごとの外来通院において、医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、医療事務による多職種チーム連携にて肥満(症)の治療にあたります。←

なお、当院では保険診療のみで肥満治療薬導入の対応を行っております。←



大森赤十字病院

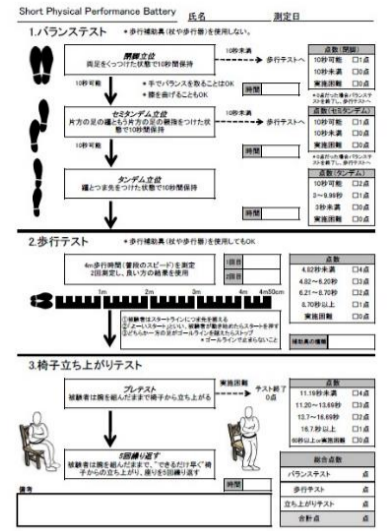
赤十字は、動いている! 日本赤十字社

糖尿病チームの中での理学療法士の役割と特徴

- ◆療養指導だけでなく、月～土曜日まで個別訓練を実施しています。
- ◆理学療法評価項目
 - ・膝伸展筋力体重比
 - MMT ではどの程度筋力が低下しているのか実感しにくいことがあります。
 - 当院ではハンドヘルドダイナモメーター(HHD)によって具体的な数値を出し体重で補正し正確な下肢筋力を算出します。
 - ・Short Physical Performance Battery(SPPB)
 - バランス・歩行能力・下肢筋力のスクリーニング評価ができ、治療や自主トレーニング指導に活用しています。
- ◆糖尿病お散歩コース
 - 糖尿病患者の皆さんに「時間」と「距離」を感じながらウォーキングを行って頂くために、時間を基準にコースを作成し、歩行距離がわかるようにしました。コース内には大森赤十字病院周辺のお寺や景色を楽しめるように設定しております。
 - 患者個人に適した運動療法を提供するためにより詳細な評価を行っています。



HHD



SPPB

糖尿病チームの中での薬剤師の役割 患者さんのアドヒアランス向上を目指して

薬剤部には 2 名の糖尿病療養指導士がいます。コロナ禍で休止していた糖尿病教室も今年度から再開となり、個別指導と併せて集団指導を通して糖尿病治療薬への理解を深めていただき、飲み忘れや間違いのない薬の管理と副作用への適切な対応をサポートします。

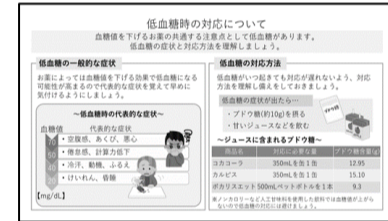
薬剤管理指導(服薬指導)・地域連携での薬剤師

短時間の糖尿病教室では、薬に対する十分な理解が得られない場合があります。薬剤管理指導(服薬指導)ではベッドサイドで患者さんそれぞれが使用している薬について繰り返し説明し、薬の必要性・重要性を理解してもらえよう努めています。自己管理が出来ない場合などサポートが必要な方においては、身近なご家族、介護者の方にもわかりやすく説明いたします。また、地域の薬局と連携するため、指導に有用な情報は「薬剤管理サマリ」を通じてかかりつけ薬局へフィードバックしていますので、是非ご活用ください。



お薬手帳を活用した低血糖指導

血糖降下薬による重要な副作用である低血糖について、当院では独自の資料を用いて指導を行っています。また、お薬手帳の末尾にシールとして貼付し、いつでも対応を確認出来るよう工夫しています。当院ホームページにてデータを公開していますので是非ご活用下さい。



糖尿病チームの中での臨床検査技師の役割

当検査部では夜間、休日は完全2交代制で 24 時間検査を実施しており外来の診療前検査や緊急検査のみならず、救急診療に対応した迅速検査を実施しています。

糖尿病療養指導では、主に簡易血糖測定器(SMBG)の使用法の説明を行っており、初めて血糖を自分で測定することになった患者さんには安心して自分で検査ができるように丁寧な説明を行うように心がけています。



糖尿病チームの中での管理栄養士の役割

- ◆糖尿病治療・療養の要である「食事療法」を栄養食事指導(栄養相談)で支援しています。
- ◆患者さん個々の病態や生活背景に応じたオーダーメイド指導で効果改善を目指しています。
- ◆入院から外来まで継続して患者さんの自己管理をサポートしています。
- ◆普段の食事管理に直結しやすいよう、視覚で理解しやすい媒体を用い、「食事療法」に興味をもってもらえる指導を心がけています。

糖尿病療養指導士在籍！

多職種で情報共有・コラボ指導で指導効果 UP

患者さん個々の生活背景を踏まえたオーダーメイドの指導

治療方針・治療薬にマッチした食事療法の提案

入院⇔外来継続フォロー指導で患者さんの自己管理をサポート

糖尿病教室 指導資料



糖尿病習慣 掲示ポスター



大森赤十字病院

日本赤十字社

赤十字は、動いている！ 日本赤十字社